

オリンパスの歴史 Our Innovation History —100年の軌跡

オリンパスは、1919年に顕微鏡の国産化を目指し創立されました。
それから約30年後には、世界初の実用的な胃カメラの開発に成功しました。
最初の製品を世に送り出してから100年にわたり、社会に向けて新しい価値を創造し続けています。

1919年～1950年代 | 1960年～1980年代 | 1990年～2010年 | 2011年～2015年 | 2016年～2018年 | 2019年

オリンパスの歴史

創業と経営近代化への道	光学総合メーカーへの発展、海外販売拠点の拡充
1919 「株式会社高千穂製作所」として創立(顕微鏡の国産化を目的) 1921 商標を「オリンパス」として登録 1949 社名を「オリンパス光学工業」と改称 東京証券取引所に株式上場	1964 欧州現地法人設立 1968 米国現地法人設立 1979 カリフォルニア州に米国拠点設立(現 北米最大の医療修理サービス拠点) 1989 中国北京市に駐在事務所、シンガポールに現地法人設立

医療分野の進化の歴史

世界初の実用的な胃カメラを開発	外科事業への参入
東大第一内科の医師と当社技術開発陣との共同開発で胃カメラ実用化に成功。 ファイバースコープの登場で胃の中を直接リアルタイムで見ることが可能に。	内視鏡が外科治療にも使われることを想定し、1979年にドイツの硬性鏡メーカーを買収、外科内視鏡分野に本格的に進出。

科学・映像製品

1920 当社初の顕微鏡「旭号」発売	1936 当社初のカメラ「セミオリンパス」発売(カメラ事業に参入)	1963 世界初のハーフサイズ一眼レフカメラ「オリンパスペンF」発売	1968 当社初の工業用ファイバースコープを発売	1983 世界初のAF機能搭載万能顕微鏡AH2を発売	2006 非破壊検査機器「OmniScan IX」発売	2009 当社初のミラーレス一眼「OLYMPUS PEN E-P1」発売	2013 ミラーレスのフラッグシップ機「OLYMPUS OM-D E-M1」発売	2016 工業用内視鏡「IPLEX NX」発売	2016 共焦点レーザー走査型顕微鏡「FV3000」発売	2016 ハンドヘルド蛍光X線分析計「VANTA」発売	2019 OM-Dシステムのプロフェッショナルモデル「OLYMPUS OM-D E-M1X」発売
------------------------------	---	--	------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------------	--	--	-----------------------------------	--	---------------------------------------	--

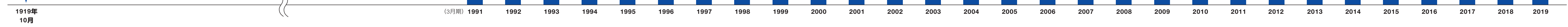
医療製品

1950 世界で初めて実用的な胃カメラを開発	1964 ファイバースコープ付きガストロカメラ「GTF」発売	1966 当社初の「生検用スコープ」および「処置具(生検鉗子・細胞診ブラシ)」発売	1975 医療用硬性内視鏡分野に参入	2000 ビデオ内視鏡システム「EVIS EXERA」発売	2002 世界初のハイビジョン内視鏡システム「EVIS LUCERA」発売	2006 NBI搭載のビデオスコープシステム「EVIS EXERA II」「EVIS LUCERA SPECTRUM」発売	2012 世界初のパイポラ高周波と超音波の統合エネルギーデバイス「THUNDERBEAT」発売	2012 消化器内視鏡ビデオスコープシステム「EVIS EXERA III」「EVIS LUCERA ELITE」発売	2015 ソニー・オリンパスメディカルソリューションズで開発した4K技術搭載の外科手術用内視鏡システムを発売	2017 3DおよびIR(赤外光)観察に対応した外科手術用内視鏡システム「VISERA ELITE II」発売	2017 3D観察 IR観察
----------------------------------	--	---	------------------------------	---	---	---	---	---	--	---	-----------------------------

売上高の推移

(注) 情報通信事業の売上高除く(2005年～2013年3月期)
2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS

創業
創業者・山下長(やました・たけし)により顕微鏡の国産化を目指し、創立。当時の社名は高千穂製作所(10月12日)



原点回帰と医療分野へのリソースシフト

2011 過去の損失計上の先送り発表	2013 東京証券取引所による当社株式の「特設注意市場銘柄」の指定解除
2012 新経営体制が発足	海外市場での資金調達(約1,100億円)
中期経営計画(中期ビジョン)発表	2015 分社を統合し、マトリックス型の組織体制へ移行
ソニー(株)との業務・資本提携	
情報通信事業を譲渡	

「内視鏡外科手術」の発展

HD画像の外科内視鏡や、高周波と超音波を同時出力する世界初の外科手術用エネルギーデバイス、3Dや4Kの外科内視鏡等、革新的な製品を順次投入。

特殊光観察で「光を診る」時代へ

「NBI(狭帯域光観察)」の開発等、技術的な進展が加速。内視鏡は観察だけではなく、治療や処置の役割も果たす医療機器として進化。

真のグローバル・メドテックカンパニーへ

100 YEARS
Endeavor for Better

2019 企業変革プラン「Transform Olympus」発表
経営戦略発表

2019年3月期 売上高
7,939億円

